

自衛官募集の横断幕を設置



広告塔として活躍中の横断幕

神奈川県地方協力本部溝の口募集案内所（所長 辻2陸尉）は、令和3年3月1日に令和3年度自衛官募集の受付開始を受け、担当地域である川崎市多摩区及び同麻生区に自衛官募集の横断幕を設置した。

令和2年度の自衛官募集状況は、コロナ禍の影響やその他の要因も相まって厳しさを増し、今後も予断を許さない状況である。最近はSNSを利用した募集広報が主流となりつつあるが、溝の口所はポスター、ポスティングを積極的に実施し限定的ではあるが市街地広報を行い、加えて横断幕の設置を継続的に行っている。

行政から道路占用許可を受け、津久井道の高石歩道橋下交差点（多摩区）に架かる歩道橋をはじめとする、各広報官の担当地域の最も目立つ場所や通勤通学時に目に留まるスポットに横断幕を設置をした。「笑顔を守るため 私たちは国を守る 陸海空自衛官募集中」と鮮やかに印刷された横断幕は、堂々たる広告塔として活躍中である。

溝の口募集案内所では「今後も行政と連携を取り、協力し合いながら募集強化につなげていきたい」としている。

横浜市のこども教育支援機関で自衛隊を紹介 「自衛官の一挙手一投足に釘付け！」



ロープ結索に取り組む参加者



広報官の説明に聞き入る参加者

自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 平原1陸尉）は、令和3年3月3日（水）東京大志学園横浜校（横浜市西区）からの要望を受け、自衛隊の仕事について紹介した。当日は、リモートを含む小中学生8名とボランティア大学生1名が参加した。前段は広報官による自衛隊の仕事についての説明し、当初やや緊張が見えた参加者も時間が経つにつれて表情も和らぎ、小学6年の児童からは「部隊の食事は美味しいですか」中学1年生からは「どんな資格を取れますか」などの質問があり、自衛隊に興味を持っているようだった。後段は、体験学習としてロープ結索と基本教練を実施した。ロープ結索では、広報官の展示を見様見真似で繰り返すうちに、1つの結び方を数秒で出来るようになり、先生に自慢げにやって見せている児童の姿が印象的だった。基本教練では、展示する広報官の一挙手一投足に釘付けになり、その後の演練では自らも真剣に取り組み、各動作をマスターしていた。最後のフリータイムでは、普段の訓練のことや海外派遣の活動内容など、広報官の経験談に真剣に耳を傾けていた。

横浜中央募集案内所は「このような広報活動を地道に継続するとともに、自衛隊を積極的にPRし、今後の募集成果につなげていきたい」としている。